



特別支援学校と小学校3年生の『交流及び共同学習』の計画・学習の進め方について

新潟県立小出特別支援学校 小山光 関恵



教師のねらい

大切になるのは…

小出特別支援学校
他校の友達と関わりながら、
混乱なく活動が
できるよう工夫する。

- 教師同士の打ち合わせ
 - ・年間計画の作成
 - ・児童の様子の情報共有
- つながりのある授業構成
 - ・教科での継続した活動
 - ・直接交流と間接交流
 - ・事前学習、事後学習

伊米ヶ崎小学校
一緒にやりたい活動や
関わり方の工夫を
児童に考えさせる。

学習の進め方

①両校担任の打ち合わせ (年度始め)

ねらい

児童の実態

配慮事項

昨年度の活動

小学校担任による
特支学校見学

②第1回交流(6月)



特支での
いつもの
音楽・体育

特支児童
の混乱を
最小限に

③特支担任による 小学校での出前授業 (第1回交流の1週間後)



特支での
学習における
工夫・支援の
紹介

どの教科で一緒に
学習したいか投げかける

④両校担任の 打ち合わせ(随時)

一緒に図工を
やりたいな!



こんな工夫を
してみよう!

児童に
考え
させる

児童の
考えを
生かす

⑤第2～5回交流(9月～11月)

図画工作「いきものランドをつくろう」

(1)いきもの決定 材料選び



(2)いきもの制作1



(3)いきもの制作2



(4)いきものさがし ウォークラリー



グループでの活動
深まる関わり

⑥各校での活動

小出特別支援学校

- 選んだ材料の加工
- 特支児童での作品制作
- 共同作品の続きの制作
- 交流前日の事前学習

離れている
間もお互いを
思う活動

交流の
意識付け、
見通し

伊米ヶ崎小学校

- 感想や意識の明確化
- 関わり方についての
作戦を立てる
- いきものランドの場所
(会場校)を考える
- 共同作品の続きの制作

成果と課題

- 担任同士がお互いの学校の児童の特性を考えて、学習に生かすことができた。
- 児童の「関わる」意識を継続させて、学習を進めていくことができた。
- △「教科のねらい」を達成するための打ち合わせや情報共有を、今後さらに重ねていけるとよい。